

氏 名：下田 佳奈
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第 152 号
学位授与年月日：2017 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 片岡 弥恵子（聖路加国際大学教授）
副査 堀内 成子（聖路加国際大学教授）
副査 八重 ゆかり（聖路加国際大学准教授）
副査 杉下 智彦（東京女子医科大学教授）

論文題目 Prevalence of and Factors Influencing Nurses' and Midwives' Self-Reported Disrespect and Abuse of Women During Facility-Based Childbirth in Tanzania

博士論文審査結果

本研究は、タンザニア施設内分娩における看護・助産師から女性への軽蔑と虐待 (Disrespect and Abuse) の実態およびその関連要因の探索を目的として、391 名を対象に自記式質問紙を用いての横断研究であった。その結果、プライバシーがないケア、同意のないケアを行ったことがある看護師・助産師は多く、ほとんどの人が少なくとも 1 項目の何らかの D&A 行為を経験していた。研究参加者の 10~20% 程度の人が、身体的暴力、身体的危害の実施、ケアの放棄といった深刻な D&A 行為を行った経験があった。関連する因子は、労働時間、午後勤務中の休憩の有無、職務満足度、新人教育システムの有無の 5 つが明らかになった。

審査において、以下の 4 点が議論された。1 に、研究の前提または理念として、Rights-based approach に立脚していることを明確に示す必要があるとの指摘があった。第 2 に、D&A の定義と尺度の信頼性・妥当性について議論された。操作的定義は既存研究や予備研究を基盤に設定されたが、D&A の概念の明確化には課題が残され下位尺度の構成を含め洗練する必要があることが確認された。第 3 に、D&A 行為と関連要因の重回帰モデルの決定係数が低かった理由について議論された。本研究では、個人要因のみならず組織要因も投入し分析したが、社会階層、言語、文化、宗教など深く関わっている可能性が指摘された。この点については今後の課題とされた。第 4 に、考察にて、日本も含め各国の D&A 行為の実態、本研究の結果を基盤に D&A を改善するための多面的な方略等を加筆することが求められた。この点についても適切に加筆された。

助産師の D&A 行為についてタンザニアの 30 か所の施設にて国外の研究者が調査することは容易ではない。信頼関係を築きながら粘り強く正確なデータの収集に努めた姿勢そして努力が高く評価された。今後タンザニアの妊産婦へのケアの質向上に貢献することが期待されるとともに、先進国・途上国を問わず看護人材育成の在り方への貢献を含めて将来性がある研究であることが認められた。以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。